

令和 7 年度

# 「運営に関する計画」

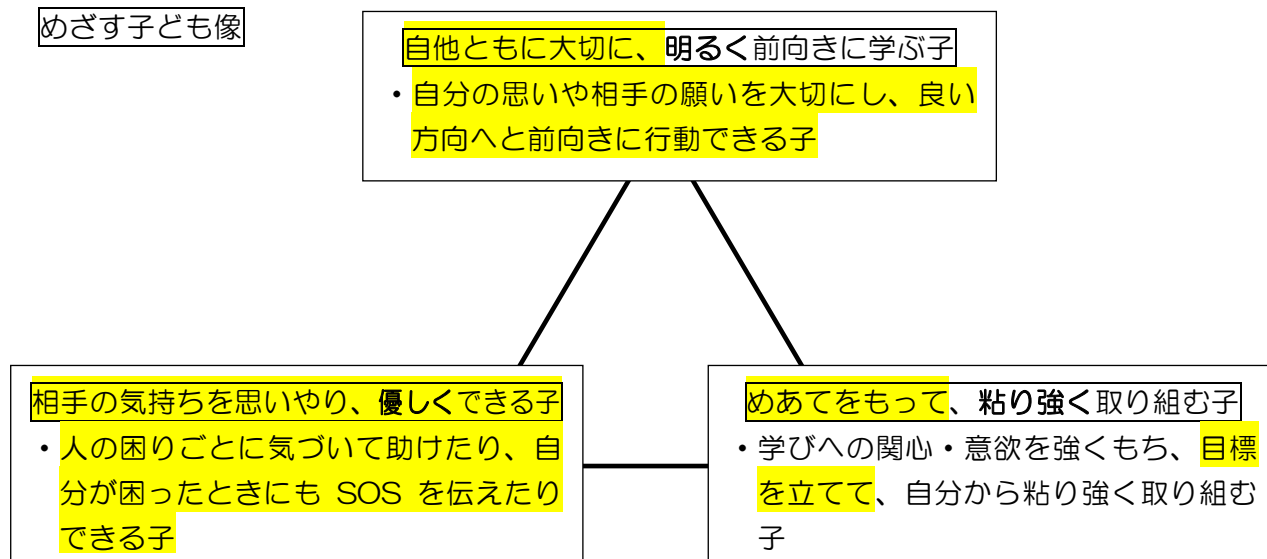
大阪市立宮原小学校

令和 7 年 4 月

学校教育目標

一人一人の子どものよさを見つめ、可能性を引き出す教育の推進

めざす子ども像



教科指導重点目標

- 語彙を豊かにする指導を通して、自分の思いや考えを豊かに形成し、考えを深める指導の充実を図る
- 日常の事象を数理的に捉え、見通しをもち筋道を立てて考察する力、数学的に考えることや数理的な処理のよさに気づき、生活や学習に活用しようとする態度を育てる
- 自分の考えを伝え、相手の考えも受け入れながら、よりよい集団づくりをめざす



《 育てたい資質・能力 ～主体的・対話的で深い学びをめざして～ 》  
求め続ける

- ・問題を把握する力 事象をよく見つめ、探求する価値のある問題を見出すことができる
- ・解決の構想をする力 解決の方法や手順を考えながら、適切な計画をたてることができる

創り上げる

- ・分析的に思考し判断する力 事実や根拠をもとに多角的に思考し、判断することができる
- ・学びを振り返る力 問題や方法、結果を吟味し、自身が獲得した学びを実感することができる

共に生きる

- ・共感する力 自己や他者の考えや行動を比較し、自分らしさや他者の様々な考えや行動を認め、受け止めることができる
- ・学びや生活に生かす力 学んだことを学習や生活に生かそうとすることができる
- ・情報を適切に活用する力 情報の危険を察知し、適切な行動をとることができる。

## 大阪市立宮原小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（総括シート）

## 1 学校運営の中期目標

**現状と課題**

## ○学級・学年・学校経営の安定と維持

＜校訓＞	＜学校教育目標＞	＜めざす子ども像＞
あかるく やさしく たくましく	一人一人の子どものよ さを見つめ、可能性を引 き出す教育の推進	○ 自他ともに大切に、明るく前向きに学ぶ 子 ○ 相手の気持ちを思いやり、優しくできる 子 ○ めあてをもって、粘り強く取り組む子

## ○保護者・地域とのよりよい連携

- ・保護者に対して、日々の連絡帳やミマモルメ、学校ホームページなどをとおして情報提供を丁寧に行い、保護者とともに子どもの成長を喜び合える関係を積み上げていく。
- ・地域に対して、朝の登校見守りへの感謝や、地域の行事への児童の参加、学校行事への理解および支援について、毎月定期的に情報共有を実施し開かれた学校運営に努める。

**【一人一人の子どもの実態に応じた学力向上への取り組み】**

令和6年度の大阪市小学校学力経年調査では、令和5年度に引き続き全学年全教科について市平均正答率を超えている。全国学力状況調査の結果も、すべての領域において全国平均を超えている。

今年度は、国語科において「読む」に焦点を当てた研究を、全教育活動で取り入れて実施していく。授業の中で話し合い活動を取り入れている結果が出ているものの、自分の考えを発表することに苦手意識を持っている児童が多い傾向があるため、「話す・聞く」に焦点を当てた研究も、引き続き全教育活動で取り入れていく。

子どもたちの学校生活は、落ち着いた環境のもと取り組むことができている。今後も日々の学校での学習において、さらに分かりやすい指導方法や、学習内容のさらなる定着を目指し、「授業が好き」になるよう、主体的に学ぶことのできる授業の工夫をしていく。

**【道徳心・社会性の育成】**

集団生活の規律を守る態度の育成に関する取り組みを続け、あいさつをすることやルール・マナーを守る意識は引き継がれている。昨年度に継続して、地域や関係各所との連携を維持・発展させ、開かれた学校づくりにつなげていく。

また、「いじめ・問題行動・不登校・児童虐待」の対応としては、組織的対応・即時解決に努め、関係機関との連携を図りながら実施している。不登校傾向の児童については、児童理解のあり方や情報共有の機会を充実させ、未然に防止できるよう教師と児童、児童相互の関係性の質の向上を目指していく取り組んでいく。また区役所子育て支援室SSWや、こども相談センターなどとも連携していく。

**【健康・体力を保持増進する力の育成】**

日常的に手洗いうがいの励行や、給食後の歯磨きを行うことでこれらの習慣化を図っている。また、早寝早起きの生活習慣の確立や毎日の食の指導を通して、健康な体づくりへの意識を高めさせていく。特に睡眠については家庭との連携が不可欠であるため、家庭への啓発も行っていく。

体育の時間以外に運動する時間がとりにくいことから、運動場や体育館で運動できるように場所と時間を調整するとともに、短時間で運動量が確保できるように内容を工夫していく。

**【危機管理におけるメディアリテラシー】**

大規模災害がいつ発生するかわからない現状において、緊急時や事後において、冷静に正確な情報伝達を行い、非常時でも自他を思いやるコミュニケーションができる学校をめざす。オンライン児童集会、教職員の緊急時接続テストの実施やメディアリテラシーの育成を促進し、情報モラルの指導において、共通した認識で児童理解に対応できるようにしていく。

## 中期目標

### 【安全・安心な教育の推進】

中期① 令和7年度の全国学力・学習状況調査の「いじめは、どんな理由であってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を90%以上にする。

中期② 令和7年度の小学校学力経年調査の「学校のきまりを守っている」に対して肯定的に回答する児童の割合を92%以上にする。

中期③ 令和7年度の全国学力・学習状況調査の「自分にはよいところがあると思いますか」の項目について、肯定的に答える児童の割合を77%以上にする。

### 【未来を切り拓く学力・体力の向上】

中期① 令和7年度の小学校学力経年調査における正答率が市平均より7割以下の児童を、いずれの学年も令和3年度(3年13.4%、4年4.6%、5年9.5%、6年7.3%)より1ポイント減少させる。

中期② 令和7年度の小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」の項目について、最も肯定的に答える児童の割合を35%以上にする。

中期③ 令和7年度の児童アンケートにおける健康生活に関するアンケート(運動、給食、睡眠)で肯定的回答をする児童の割合を令和3年度(運動:78.3%、給食:88.9%、睡眠:72.5%)より増加させる。

### 【学びを支える教育環境の充実】

中期① 令和7年度末の校内調査の「日々の授業の中で学習者用端末を活用して、学習をしている」の項目について「ほぼ毎日」と答える児童の割合を80%以上にする。

中期② 第2期「学校における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準1を満たす教職員の割合を、令和7年度末に56.4%にする。

中期③ 令和7年度の小学校学力経年調査の「読書は好きですか」の項目について、肯定的に答える児童の割合を76.5%以上にする。

中期④ 令和7年度末の保護者アンケートの「学校は保護者との連携がうまくとれている」の項目について肯定的に答える保護者の割合を令和3年度(79.2%)より3ポイント増加させる。

**【安全・安心な教育の推進】**

- ①小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由であってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を85%以上にする。
- ②年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。
- ③年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。
- ④小学校学力経年調査における「学校のきまりを守っていますか」の項目について、肯定的回答をする児童の割合を90%以上にする。
- ⑤小学校学力経年調査における「自分にはよいところがあると思いますか」の項目について、肯定的に答える児童の割合を、80%以上にする。

**【未来を切り拓く学力・体力の向上】**

- ①小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を40%以上にする。
- ②小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.1ポイント向上させる。
- ③児童アンケートにおける健康生活に関する内容（運動、給食、睡眠）で肯定的に回答する児童の割合を前年度（運動：79.3%、睡眠：75.8%）より増加させる。給食については85%以上の維持を目指す。
- ④小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を70%以上にする。

**【学びを支える教育環境の充実】**

- ①授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数を、年間授業日の50%以上にする。（ただし、事務局が定める学校行事等のICT活用が適さない日数を除く。）
- ②第2期「学校における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準1※を満たす教職員の割合を84.2%以上にする。  
※基準1 次の2点の基準を満たすこと
  - ・ 1か月の時間外勤務時間が45時間を超えない
  - ・ 1年間の時間外勤務時間が360時間を超えない
- ③児童アンケートにおける「本をよく読んでいる」の項目について、肯定的に答える児童の割合を75%以上にする。

### 3 本年度の自己評価結果の総括

## 大阪市立宮原小学校 令和 6 年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成 状況
<b>【安全・安心な教育の推進】</b> ①小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由であってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を 85%以上にする。 ②年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。 ③年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。 ④小学校学力経年調査における「学校のきまりを守っていますか」の項目について、肯定的回答をする児童の割合を 90%以上にする。 ⑤小学校学力経年調査における「自分にはよいところがあると思いますか」の項目について、肯定的に答える児童の割合を、80%以上にする。	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進 捗 状況
<b>取組内容①【基本的な方向 1 安全・安心な教育環境の実現】</b> いじめの早期発見・解消のために、いじめに関する年間計画（道徳指導・いじめについて考える日・いじめアンケートなど）を作成し、計画に従い実践する。また、いじめや暴力行為、不登校に関する組織的対応を協議したり、生活指導上の諸課題について共通理解したりするための連絡会を定期的に行う。	
<b>指標</b> ・いじめアンケートを学期ごとに年 3 回実施し、認知したいじめ事案については 100% 拾い上げ、解決を目指す。 ・職員会議後に毎回、児童理解研修会を行い、不登校児童の実態を確認し、改善に努める。 ・児童アンケートにおける「命や人権の大切さについて考え、いやがらせや暴言、暴力などしていない」の項目について肯定的に回答する児童の割合を 92%以上にする。	
<b>取組内容②【基本的な方向 1 安全・安心な教育環境の実現】</b> 安全な学校生活を送るためのきまりが守れるように、生活指導部を中心に啓発活動を行う。	
<b>指標</b> ・児童アンケートにおける「学校のきまりを守っている」の項目について肯定的に回答する児童の割合を 92%以上にする。 ・規範意識を高める「宮原小学校 学校安心ルール」「学校生活のきまり」「外遊びのきまり」を共有し、学校生活に関する指導を学年学級で取り組む。	
<b>取組内容③【基本的な方向 2 豊かな心の育成】</b> 児童の発達段階に合わせた体験活動（総合的な学習の時間、泊を伴う体験を含む学校行事、学級活動、児童会活動等）、異学年児童の交流を図る体験活動の充実により、児童の自己肯定感の向上を目指す。	
<b>指標</b> ・児童アンケートにおける「自分にはよいところがあると思う」の項目について肯定的に回答する児童の割合を 80%以上にする。	

・つながりを意識できる活動、感情に関する理解を深める活動を学級学年単位で行う。 (総合的な学習の時間、泊を伴う体験を含む学校行事、学級活動、児童会活動等。)	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
後期への改善点	



## 大阪市立宮原小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<b>【未来を切り拓く学力・体力の向上】</b> ①小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を40%以上にする。 ②小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.1ポイント向上させる。 ③児童アンケートにおける健康生活に関する内容（運動、給食、睡眠）で肯定的に回答する児童の割合を前年度（運動：79.3%、睡眠：75.8%）より増加させる。給食については85%以上の維持を目指す。 ④小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を70%以上にする。	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<b>取組内容①【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の増加】</b> 全教育活動で、子ども一人一人が参加し、主体的で対話的、深い学びのできる授業を工夫する。	
<b>指標</b> ・全員参加型の研究授業・研究討議会を年3回実施する。またその他の研究授業や校内研修を充実させていく。 ・児童アンケートにおける「授業では、考えを発表したり友だちと話し合ったりしている」の項目について、肯定的に答える児童の割合を80%以上にする。	
<b>取組内容②【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の増加】</b> 読み・書き・計算などの基礎的・基本的な知識・技能を着実に身に付けさせるとともに、家庭学習も含めた学習習慣の定着を図る。	
<b>指標</b> ・宮原タイムの時間を活用して、漢字・視写・計算のいずれかを毎週1回以上行う。 ・児童アンケートにおける「家で、宿題のほかに学習（自学ノートなど）をしている。」の項目について肯定的に回答する児童の割合を75%以上にする。	
<b>取組内容③【基本的な方向5 健やかなる体の育成】</b> 保健指導やほけんだより、掲示物、委員会での啓発や、学校保健委員会、健康強調週間を実施することで、適正な生活習慣を身につけるようにする。また、栄養を取る大切さを給食だよりや食に関する指導を通して知らせることで、給食を残さず食べられるようにする。	
<b>指標</b> ・養護教諭と学級担任が連携して、健康教育に関する授業を全学級で年1回以上行う。 ・年2回の健康強調週間で各項目の自分の生活を振り返る。	

<p>取組内容④【基本的な方向 5 健やかなる体の育成】</p> <p>学級指導や全体指導のなかで外遊びの啓発を行い、体育の授業等で体を動かし、体力の向上に努める。また、かけ足・なわとび週間を実施することで、体力を向上できるようにする。全学年、新体力テストを春と秋に2回測定する。</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童アンケートにおける「外で遊んだり、すすんで運動したりしている」の項目について肯定的に回答する児童の割合を前年度より向上させる。</li> </ul>	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
後期への改善点	

## 大阪市立宮原小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<b>【学びを支える教育環境の充実】</b> ①授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数を、年間授業日の50%以上にする。（ただし、事務局が定める学校行事等のICT活用が適さない日数を除く。） ②第2期「学校における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準1※を満たす教職員の割合を90%以上にする。 ※基準1 次の2点の基準を満たすこと ・1か月の時間外勤務時間が45時間を超えない ・1年間の時間外勤務時間が360時間を超えない ③児童アンケートにおける「本を読むのは好きですか」の項目について、肯定的に答える児童の割合を69.6%以上にする。	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向6 教育DX（デジタルトランスフォーメーション）】 子どもの興味・関心を高めるために、一人一台端末を積極的に活用していく。	
指標 ・学校活動の中でほぼ毎日、一人一台端末などのICT機器を効果的に活用していく。 ・ICT機器を使用した活用方法を研修や掲示物等で共有する。	
取組内容②【基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 会議や研修を精選し、時間外勤務時間の縮小や時間休暇、年次有給休暇を取得しやすい職場環境を構築していく。	
指標 ・ゆとりの日については月3回以上設定する。 ・学校閉庁日については、夏季休業中は3日以上、冬季休業中は1日以上設定する。	
取組内容③【基本的な方向8 生涯学習の支援】 読書に関わる活動や読書を通して、本に親しむ児童を育成する。	
指標 ・朝の読書タイムや読み語りボランティアとの連携を図り、年間を通して読書活動を充実させたり、読書週間や読書ノートを活用し目標をたてたりして読書に親しみ、児童アンケートにおける「本を読むのは好きですか」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を前年度（69.6%）より増加させる。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	

後期への改善点